

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、問題文中の事例や見聞きしたプロジェクトの事例を参考にしたと思われる論述や、プロジェクトの作業状況の記録に終始して、自らの考えや行動に関する記述が希薄な論述が散見された。プロジェクトマネジメント業務を担う者として、主体的に考えてプロジェクトマネジメントに取り組む姿勢を明確にした論述を心掛けてほしい。

問1

問1では、脅威を抑える対応策については、実際の経験に基づいて論述していることがうかがわれた。一方で、機会を生かす対応策については、対応策が不明な論述やプロジェクトの状況に即していない論述も見受けられた。事業環境の変化が激しい昨今では、プロジェクトマネジメント業務を担う者として計画変更に伴う脅威を抑えるとともに、計画変更をプラスの機会と捉えて積極的に対応できるように、変化への適応力を高めるためのプロジェクトマネジメントのスキルの習得に努めてほしい。

問2

問2では、計画段階におけるコミュニケーションについては、プロジェクトマネジメント業務を担う者として期待される経験が不足していると推察される論述が見受けられた。一方、実行段階におけるコミュニケーションについては、認識の不一致の原因や不一致の解消のためのステークホルダへの働きかけなどについて、具体的に論述できているものが多かった。プロジェクトマネジメント業務を担う者として、ステークホルダとの関係性の維持・改善を意識して、コミュニケーションのスキル向上に努めてほしい。